

レスポンシブル・ケア活動 102-12, 102-15, 103-1, 103-2, 103-3

日々の安全確保と環境保全を図るため、化学に携わる企業の自主管理活動である「レスポンシブル・ケア(RC)活動」に取り組んでいます。

社会的課題と花王が提供する価値

認識している社会的課題

製品の安定供給や品質・安全性の確保、安全で衛生的な労働環境の提供および事業活動による環境負荷の低減は、国内外に拠点を設け、幅広い産業界に多種多様な素材・製品・システムを提供するケミカル事業を有する企業として、果たすべき重要な社会的責任です。

「2030年までに達成したい姿」の実現に関わるリスク

RC活動の一つひとつが社内・社外への重要活動であるため、一つでも欠けると会社への信頼性や花王製品に対するイメージの失墜が生じます。

「2030年のありたい姿」の実現に関わる機会

企業の自主的な活動である「レスポンシブル・ケア(RC)活動」を推進することで、ステークホルダーとの強い信頼関係が構築されることは、花王製品のブランドイメージや会社への信頼性向上につながります。

花王が提供する価値

化学産業界の自主的な環境・健康・安全を確保する活動である「レスポンシブル・ケア(RC)活動」を推進することで、倫理的な観点からも社会との信頼関係の構築を

通じた持続可能な社会づくりに貢献できます。その結果、消費者や顧客企業が安心して花王製品を利用でき、また従業員が安全・安心に働くとともに、工場／拠点の近隣コミュニティが安全・安心な生活を送ることができます。

貢献するSDGs



方針

化学品の製造・販売・流通等に関わる花王は、製品のライフサイクル(製品の開発・製造から使用・消費・リサイクル・廃棄に至るまで)において、環境・健康・安全を確保し、その取り組みを継続的に改善し、生活の質の向上と持続可能な社会の実現に貢献することにより、社会からの信頼の向上に努めています。

この目的達成のため、「環境・安全の基本理念と基本方針」を定めるとともに、「花王レスポンシブル・ケア方針」を定め、事業活動を行なっています。

花王は1995年の日本レスポンシブル・ケア協議会設立当初から「RC活動」に参加しており、2008年には「RC世界憲章」の支持宣言書に当時の尾崎社長が、さらに2014年には改訂された「RC世界憲章」に当時の澤田社長が、それぞれ署名を行ない、RC活動を花王全体で推進していくことをコミットしています。化学産業界の「環境・健康・安全」に関する「レスポンシブル・ケア(RC)活動」の基本項目*の考え方に則った「花王レスポンシブル・ケア方針」を定め、協力会社を含めた花王全体で毎年目標を策定し、年間計画に基づいた活動を継続的に行なっています。

この「花王レスポンシブル・ケア方針」は2012年に制定し活動を進めてきましたが、2014年に国際化学工業協会協議会(ICCA)が「RC世界憲章」を改訂、それに伴い2016年に日本化学工業協会(JCIA)も「RC基本方針」を改訂したのを契機に、今後2030年までの活動や目標を決めるにあたり、2020年12月に改訂しました。この改訂では内容を刷新し「継続的教育」を追加するとともに、各項目に表題を付加して社員が親しみやすいよう配慮しました。

*「レスポンシブル・ケア(RC)活動」の基本項目:「環境保全」「保安防災」「労働安全衛生」「化学品・製品安全」「物流安全」の5つの推進項目と「社会とのコミュニケーション」



環境・安全の基本理念と基本方針

www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/environment-safety-principle-policies.pdf

レスポンシブル・ケア活動 102-20, 102-43, 403-5 (労働安全衛生 2018), 404-2



花王レスポンシブル・ケア方針
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/responsible-care-policy.pdf

教育と浸透

製品のライフサイクルにおける環境・健康・安全を確保する「RC活動」の理念やその方針は、花王全社員のみならず協力会社とも共有する必要があります。そのためRC推進委員会事務局や各推進部門のRC担当者は、社員や協力会社の社員を対象に、環境や労働安全衛生活動などのRC活動やその方針に関する教育を定期的に実施しています。

→ 具体的な取り組み: RC活動の標準化
P278

ステークホルダーとの協働／エンゲージメント

花王グループ各社はRC活動の基本項目の一つである「社会とのコミュニケーション」に基づき、環境・健康・安全に関わる方針や活動状況を積極的に開示し、生活

者・顧客、従業員、地域社会等とコミュニケーションを積極的に行ない、すべてのステークホルダーの支持と信頼を得るよう努めます。

体制

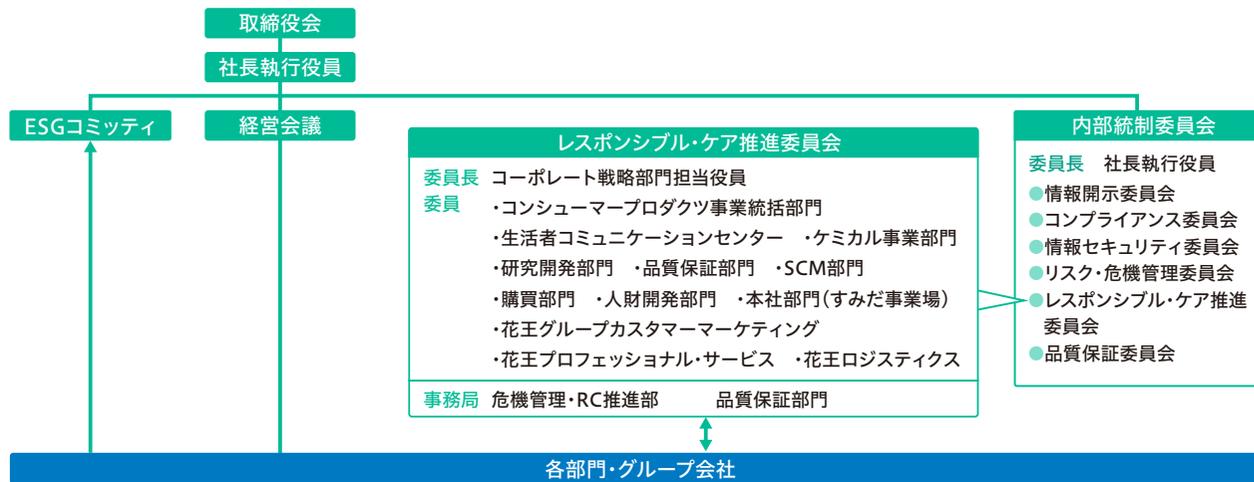
レスポンシブル・ケア推進委員会は、社長が委員長を務める内部統制委員会内の一委員会として位置づけられており、四半期に一度、内部統制委員会に報告を行っています。内部統制委員会は取締役会へ傘下の委員会の活動報告をまとめて行ないます。レスポンシブル・

ケア推進委員会の委員長は部門統括(常務執行役員)が務め、日本国内の8つの推進部門の代表とともに、4部門の代表と品質保証部門の担当を加えた委員14人で構成されており、毎年1回開催しています。事務局は危機管理・RC推進部と品質保証部門が務めています。

花王(株)を含む花王グループ内各ケミカル会社は、各国の化学工業会に参画しRC活動を推進しています。

→ コーポレート・ガバナンス
P255

レスポンシブル・ケア活動体制



レスポンシブル・ケア活動

中長期目標と実績

花王は2030年にグローバルでトップレベルの安全確保と環境保全を満たす企業になるべく、日々のRC活動を推進しています。

この目標を達成するために、現在のRC活動のさらなるレベルアップ、および活動範囲の拡大、マネジメントシステムの向上をめざしていきます。

そのため「花王グループRC目標」として2030年までの中長期目標を立て、この目標に対しバックキャストする毎年の目標を設定し、日々の活動へ落とし込んでいます。

中長期目標を達成することにより期待できること

事業インパクト

事業活動が正常に行なわれ、安定した商品供給が行なわれるとともに、不要な経費の発生が抑えられます。

また社会的レピュテーションの向上により、製品やブランドへの好感度も上がり事業拡大が望めます。

社会インパクト

事業活動地域において環境負荷の低減、衛生状況の改善、社会への還元が行なわれ、その結果、地域住民を含むステークホルダーの生活レベル(QOL)の向上に貢献できます。

2021年の実績

2021年は9月27日に「花王グループRC推進委員会」、12月17日に「日本RCミーティング」を開催しました。7月～8月にかけて「RC事務局監査」を日本およびグローバルの各会社、推進部門に対し実施しました。

またRC事務局監査の一環として、RC推進委員会事務局は毎年複数の推進部門の自己点検に立ち会い、規程等に基づきRC自己点検が適切に実施されているか確認しています。

新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年引き続き今年もリモートでの監査、立ち会いとなりました。2021年は7月～8月に実施されたSCM部門の安全防災部会監査にRC推進委員会事務局が立ち会いました。

また当初11月に予定していた集合での「グローバルRCミーティング」も新型コロナウイルス感染症の影響により中止とし、昨年同様オフラインでの情報共有を実施しました。

→ コーポレート・ガバナンス
P255

→ 具体的な取り組み:RC事務局監査実施状況
P280

→ 具体的な取り組み:RC活動に関する教育
P281

実績に対する考察

環境では「エネルギー使用量」および「温室効果ガス発生量」で目標達成しましたが、「水使用量」については目標未達でした。昨年 Kirei Lifestyle Plan の中期目標に沿う形で設定した「購入電力中の再生エネルギー割合」および「排水COD、VOC排出量の公開率」はいずれも目標を達成しました。

安全では「休業災害度数率」「全災害度数率」とも目標未達でしたが、「死亡、機能損失災害」「業務上疾病による休業」「物流漏洩事故」の項目がいずれも発生件数ゼロで目標を達成しました。

今年も目標未達の項目などもありましたが、当初の目標値は変更せず、さらなる改善をめざしていきます。

レスポンシブル・ケア活動 403-1, 403-5(労働安全衛生 2018)

具体的な取り組み

RC 活動の標準化

日本国内の8推進部門およびすべての海外関係会社は、RC推進委員会で決定された花王RC目標をもとに、それぞれの業務内容や業種・業態に応じた活動計画を立案し、以下のようなサイクルでRC活動を推進しています。

花王グループRC推進委員会(9月)

毎年9月に開催する「花王グループRC推進委員会」では、活動方針の徹底やマネジメント体制の強化に関する施策を討議するほか、花王グループの中期目標と8月に行なうRC事務局監査の結果をもとに、次年の数値目標と活動目標を審議します。

グローバルRCミーティング(10月～11月)

10月～11月に開催する「グローバルRCミーティング」では、RC推進委員会事務局から「花王グループRC推進委員会」で決められた花王グループの中期および次年目標の説明を行ない、各社に次年の目標と計画の策定を依頼します。各社からはRC活動状況が発表され、グループ間での情報の共有を図ります。

日本RCミーティング(12月)

12月に開催する「日本RCミーティング」では、「花王グループRC推進委員会」で決められた花王グループの数値目標と活動目標をもとに、各推進部門のRC推進委員が次年の計画案を発表し、審議します。この会議で承認された内容は、RC推進委員が各推進部門に持ち帰り、推進部門ごとにより細かく設けた活動ユニットへ伝えることで、現場に密着した活動の継続的な改善・レベルアップを図っています。

2021年は、9月27日に「花王グループRC推進委員会」をオンラインで開催しました。事務局からは2021年のRC目標に対する花王グループ全体の上半期の実績やRC事務局監査結果、高圧ガス保安監査結果を報告しました。また、推進部門から各部門の推進活動状況が発表されました。最後に審議事項として、2022年の花王グループRC目標が承認されました。

12月17日の「日本RCミーティング」もオンラインで実施し、各推進部門のRC推進委員が2021年の活動実績を報告するとともに、2022年の自部門の計画案を発表し、審議・承認されました。また事務局からは2021年の環境および安全の実績報告を行ないました。

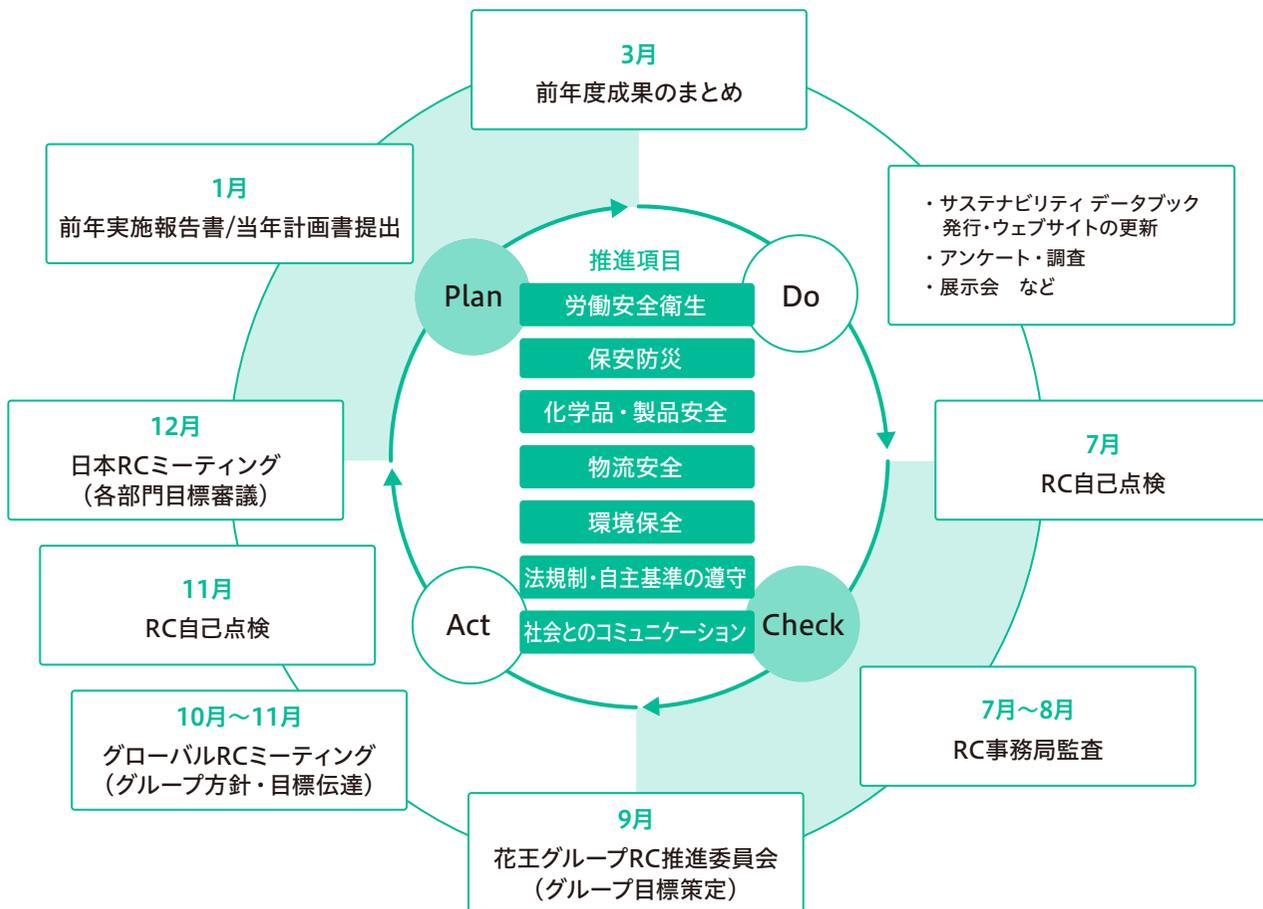
当初11月8・9日に各国RC担当者が参集し、「グローバルRCミーティング」を本社で開催する予定でしたが、

昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響で中止し、代替としてオフラインで、花王グループのRC活動方針の理解、2022年の目標を確認するとともに、RC活動の活性化とレベルアップを目的に各社のRC活動の状況確認、ベストプラクティスの共有を行ないました。

昨年からの新型コロナウイルス感染症の影響で海外各国RC担当者と直接意見交換などできない状況のため、2021年4月～6月にかけてエリアごとリモートで情報交換会を計8回開催しました。この情報交換会では事務局からは2020年のサマリーや活動トピックスおよび2021年の目標や活動内容、各国担当者からは2020年の活動状況やトピックスなどを報告するとともに、RC全般の意見交換を行ないました。

レスポンシブル・ケア活動 403-1(労働安全衛生 2018)

RC活動の年間サイクル



環境・安全データベースなどを活用

花王は、環境負荷の低減や労働災害・事故発生数の低減を図るための環境・安全データベースである「環知安システム」*を構築して運用しています。

このシステムでは、花王全体の温室効果ガスの排出量や労働災害の発生度数率・強度率などを自動算出することができ、環境負荷低減や労働災害防止に活用しています。

グループでより効率的に環境・安全データを利用するために、新しいシステムへの移行を検討中で、現在情報システム部門とともに具体的なシステムの検討を行っています。

※環知安システム

エネルギー使用量、温室効果ガス排出量、ばい煙排出量、水使用量、排水量、排水濃度測定結果、土壌・地下水測定結果、PRTR法対象化学物質の取扱量および排出量・移動量、廃棄物等の発生量・排出量・最終埋立処分量、労働災害統計、交通事故統計など、多様なデータを共有している。

レスポンシブル・ケア活動 403-2(労働安全衛生 2018)

RC 事務局監査実施状況

花王は、RC 活動の進捗状況や課題を把握するために、7月に各推進部門が活動ユニットに対してRC自己点検を、8月にRC 推進委員会事務局より選出された監査チームが、日本の各推進部門および海外グループ会社に対して監査を実施しています。

また、これらの結果を9月の「花王グループRC 推進委員会」および11月の「グローバルRC ミーティング」で報告するとともに、翌年の数値目標や活動目標の策定に活かしています。

なお本監査は全社規程(B-02-00「レスポンシブル・ケア事務局監査規程」)に基づき実施されるもので、監査に用いるチェックシートの設問ごとに実施状況(実

施の有無、実施率)を点数付けすることで評価します。

2021年は7月から8月にかけて、日本の8推進部門、海外は安全と環境面の影響度を配慮して工場を持つグループ会社19社※に対して、チェックシートを用いてRC 事務局監査を実施しました。今年はチェックシートを、ISO140001およびISO45001の要求事項、ICCA(国際化学工業協会協議会)のセルフアセスメントツールの項目を反映したものに一部変更するとともに、RC 活動のパフォーマンスについてもあわせて評価する内容に改善しました。

日本については、各推進部門とリモートにて、法的要求事項・基準等の遵守状況、計画の進捗状況や数値目標の達成状況など確認しました。海外については、同じチェックシートを用いた書類監査を実施しました。今

回の監査では2020年の監査時の指摘事項についてはすべて対応済みであることもあわせて確認しました。

2021年のRC 事務局監査の結果については、今回チェックシートを大幅に見直したことにより、多くの部門、会社で昨年よりスコアが下がりました。また継続観察が必要な項目として労働安全および環境保全に関する指摘が多く見られたため、さらなるレベルアップを依頼しました(下表参照)。

※上海花王、花王(合肥)、花王(上海)化工、花王葫芦島鑄造材料、花王(台湾)、花王(ベトナム)、ピリピナス花王、花王インダストリアル(タイランド)、ファティケミカル(マレーシア)、花王(インドネシア)、花王インドネシア化学、花王USA、花王スペシャルティーズアメリカズ、キミ花王、花王マニュファクチャリングジャーマニー、ドイツ花王化学、モルトンブラウン、花王コーポレーション(スペイン)、花王チミグラフ

RC 事務局監査実績(2021年度)

	SCM部門	研究開発部門	事業部門	コーポレート部門	日本グループ会社※1	海外グループ会社※2
評価回答数	250	161	249	452	741	6,300
評価平均点【5点満点】※3	4.26(4.91)	4.70(4.98)	4.84(4.90)	4.49(4.86)	4.62(4.82)	4.52(4.52)
継続観察が必要な項目	4	1	0	6	7	—

※1 日本グループ会社

花王プロフェッショナル・サービス(株)、花王グループカスタマーマーケティング(株)、花王ロジスティクス(株)

※2 海外グループ会社

19社(アジア11、欧米8)

※3()内は2020年の結果

レスポンシブル・ケア活動 403-2, 403-4, 403-5 (労働安全衛生 2018)

国際マネジメントシステム認証状況

花王は、RCマネジメントシステムを全拠点を対象に導入しています。環境の国際規格であるISO14001、労働安全衛生の規格であるISO45001の認証や各国の認証も受けています。

環境に関する認証取得状況 (ISO14001等)

外部認証を受けている工場の割合はISO認証機関で96%、政府などその他の認証機関で2.5%となっています(総生産量重量基準)。

活動の標準化・高度化をめざし、個別工場で取得していた認証の統合を実施し、日本とアジアの15サイトで完了しています。今後、統合する工場を増やすなど、認証取得拠点の拡大を実施していきます。

労働安全衛生に関する認証取得状況 (ISO45001等)

労働安全衛生のマネジメント規格は、労働管理の強化が必要な海外の工場で優先的に取得を推進しており、その割合は35%です(総生産量重量基準)。

活動の標準化・高度化をめざし、個別工場で取得していた認証の統合をアジアの5サイトで完了しています。今後、統合する工場を増やすなど認証取得拠点の拡大を検討するとともに、2023年から日本での導入も検討しています。

品質に関する認証取得状況 (ISO9001等)

外部認証を受けている工場の割合は95%です(総生産量重量基準)。今後、認証取得工場を拡大していきます。

外部認証取得一覧



ISO等認証取得一覧
www.kao.com/jp/corporate/sustainability/our-approach-to-klp/environment-activity-data/certification/

RC活動に関する教育

RC推進委員会事務局や各推進部門のRC担当者は、社員や協力会社の社員を対象に、環境や労働安全衛生、保安防災などのRC活動に関する教育を定期的を実施しています。2021年も新型コロナウイルス感染症の影響で在宅勤務が増加した状況を考慮し、対面ではなくネット学習(eラーニング)を積極的に活用し教育を実施しました。

2021年は日本花王グループの全社員を対象に、①昨年に引き続き防災知識について、②昨年12月に改訂した花王RC方針について、のネット教育および確認アンケート等を実施しました。これら教育の平均受講率は80%以上でした。2021年にRC推進委員会事務局が社

員を対象に実施したRC教育は19回、のべ51,000人余りが参加しました。

今後も積極的にeラーニングなどを活用しRCに関する教育を実施していきます。

レスポンシブル・ケア活動

ステークホルダーとの協働

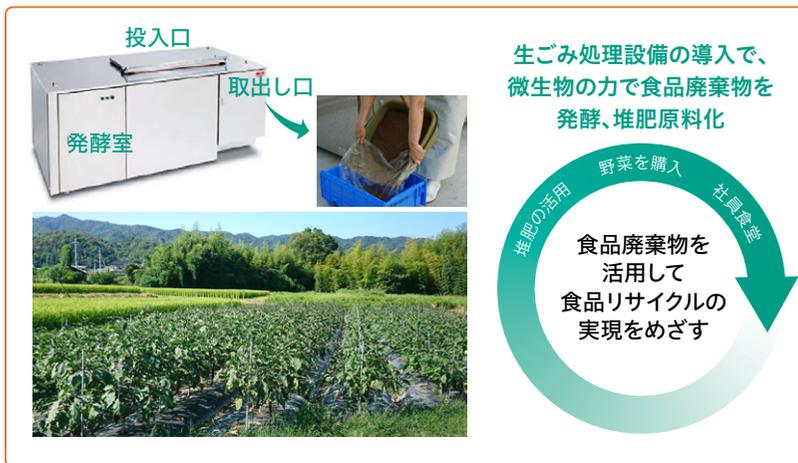
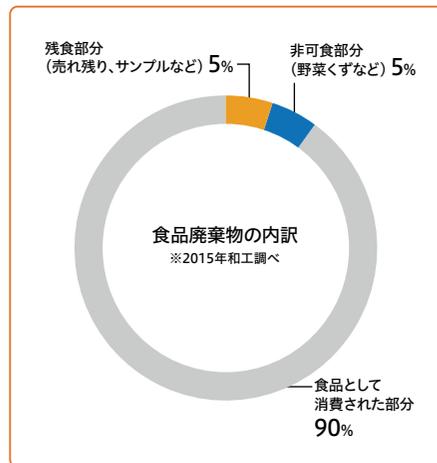
地域と一緒に、食品リサイクル実現をめざして(和歌山事業場)

和歌山事業場では食品廃棄物の堆肥化で食品リサイクルの実現をめざす取り組みを進めています。和歌山工場の社員食堂の1日の食品廃棄物は、100~130g/人・日になり、この量は食堂で使用する全体量の約10%に相当します。この食品廃棄物量を減らすために、①陳列サンプルを廃止して写真にする、②余分な水分を除去する、③出勤者数や献立内容などにより食堂利用者

数を予測して食品を減らす取り組みを行なっています。それでも残ってしまう食品廃棄物について、2021年6月に、生ごみ処理設備を導入し、微生物の力で食品廃棄物を発酵、堆肥原料化して、堆肥と一緒に活用し、野菜作りに使っていただくチャレンジを始めました。

これまで廃棄処理していたもののうち、現在約20kg/日で試行しています。自分たちの食堂で残ってしまった食材・調理くずが堆肥に、そして野菜作りに活用され、その野菜がまた食堂に戻って美味しい昼食に調理されるという、食品リサイクルをめざしています。

食品廃棄物を活用して食品リサイクルの実現をめざす



TOPIC 外部からの評価

SCM 部門が「レスポンシブル・ケア(RC)」の審査員特別賞を受賞

花王SCM部門が「化学物質リスクアセスメントのための効率的な評価法開発と体制確立への取組み」において、一般社団法人日本化学工業協会「第15回 RC賞」で「RC審査員特別賞」を受賞しました。

化学物質を多種多様に取り扱う会社として、社員を化学物質の危険性・有害性から確実に守るために正確、迅速かつ効率的な化学物質リスクアセスメントツールを新たに開発するとともに、それを確実に推進、実施する体制を自社で構築したことが高く評価されました。



レスポンシブル・ケア活動

レスポンシブル・ケア活動 関連データ リンク集

レスポンシブル・ケア活動の体制、主な活動内容、2021年の実績は、以下もあわせてご覧ください。

労働安全衛生

→ 正道を歩む > 社員の健康増進と安全
 P220

保安防災

→ 保安防災
 P338

化学品・製品安全

Web Our Approach to KLP > 化学物質をより安全に使用するための取り組み (SAICM 推進活動)
www.kao.com/jp/corporate/sustainability/our-approach-to-klp/saicm/

Our Approach to KLP > 環境・安全の基本理念と基本方針
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/environment-safety-principle-policies.pdf

Topics You Care About > 品質保証
www.kao.com/jp/corporate/sustainability/topics-you-care-about/safety-quality/

→ 正道を歩む > 責任ある化学物質管理
 P244

環境保全

Web 基本方針
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/environment-safety-principle-policies.pdf

Our Approach to KLP > 花王 環境宣言
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/environmental-statement.pdf

Our Approach to KLP > 環境活動データ集
www.kao.com/jp/corporate/sustainability/our-approach-to-klp/environment-activity-data/

Topics you care about > 責任ある原材料調達
www.kao.com/jp/corporate/sustainability/topics-you-care-about/procurement/

よりすこやかな地球のために
www.kao.com/jp/corporate/sustainability/planet/

→ Fundamental Section > 生物多様性
 P316

法規制・自主基準の遵守

→ 正道を歩む > 実効性のあるコーポレートガバナンス
 P155

社会とのコミュニケーション

Web Corporate Citizenship Activities (社会貢献)
www.kao.com/jp/corporate/sustainability/society/